

会議の概要

令和２年度 第７回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

- 兼
- 大山幼稚園学校運営協議会
 - 玉井幼稚園学校運営協議会
 - 大山小学校学校運営協議会
 - 玉井小学校学校運営協議会
 - 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和２年１２月 ７日（月）１８：３０～２０：３０

場 所：改善センター１階 多目的ホール 他

（進行 指導主事 斎藤 一範）

１ 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都）

みなさん、こんばんは。これより令和２年度第７回おおたま学園コミュニティ・スクール（以下ＣＳと略記）委員会を行います。よろしくお願いいたします。

２ 教育長あいさつ

（大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

- おばんでございます。今年もいよいよ師走を迎えました。新型コロナウイルスの収束がなされず、先の見えないような状況ですが、今年最後のＣＳ委員会をよろしくお願いします。

- 今日は盛りだくさんの内容になっている。その一つ目は学校評価についての研修である。

講師には、福島学院大学の渡辺博志先生をお願いしている。（お忙しい中、たくさんの資料をご準備いただきありがとうございます。）昨年度、一昨年度と学校評価について渡辺先生からご講話いただいた。評価系統は難しいイメージであったが、分かりやすく具体的にご説明いただき、それをもとに各ＣＳ委員さんにも適切に学校評価をしていただいた。今年もぜひこの機会を生かしていただきたい。

二つ目は、第２回コミュニティ広場について、三つ目は、各学校の校長先生方に来年度の学校経営についてお話しいただきご協議いただきたい。

- 「学校行事を見直す」… コロナ禍によりいろいろ悩み、子どもたちのことを思って、感染防止をしながら様々な策を講じてきたわけだが、学校（校長）は学校行事を削減していこうという発想になるのではないかな。

８月２４日付福島民報の『あぶくま抄』に柳田国男が提唱した『ハレとケ』という興味深い記事が載っていた。

「ハレ（晴れ）は儀礼や祭り、年中行事などの『非日常』で、ケは普段の生活を表す。前者は、とかく脳裏に焼き付くものだ。（中略）感染症に神経をとがらせ、ハレの日もない暮らしが日常になるのだけは、勘弁願いたい。」



この文章を読んで、コロナ禍で一変してしまった子どもたちの学校生活を想起した。これまでの教育活動を振り返ってみると、ハレとケのバランスがとられハレにあたる学校行事（特別活動）の充実によって、学校は子どもたちの豊かな学びの場になっていたように思えてならない。

また、フランス人の文化人類学者ヴァン＝ジェネップが考え出したと言われるものに「通過儀礼」がある。人間が生まれてから一生をおくる中での大切な節目のことで、誕生、七五三、入学、卒業、成人式等がこれに当たる。そして、学校においては学校行事がそれに当たると言える。コロナ禍にある今こそ、人と人との関わりを大切にする学校行事を見直すチャンスであると考えている。

大山小学校の館脇校長先生が、本年度、運動会と学習発表会と一体化させた“Vamos Ohyama Deportes”を開催したことについての原稿が小学校長会安達支部広報第189号に掲載された。CS委員会でいろいろ知恵をいただいて、その結果がこういう形になったものである。これも一例として紹介しておきたい。

- 「ほんとの教育課程」を創る … 『智恵子抄』にある『あどけない話』にある「ほんとの空」が意味することは、郷土に対する強烈な思いではないかと考える。そういう考えで教育課程を創っていく必要がある。「ほんとの教育課程」を創るためには、地域と一体となって創っていかなければならない。「社会に開かれた教育課程」とも言えるが、そのための今日の話し合いは大変重要なものである。

どうぞよろしくお願いいたします。

3 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長あいさつ

（おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長 伊藤 和弥）

- 改めまして、おばんでございます。本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また、渡辺先生におかれましては、今年もお忙しい中おいでいただきありがとうございます。肩の荷を下ろして学校評価ができるということで、お話をお聞きしてから一年が経つと理解が曖昧になってきてしまうところもあるので、改めて勉強させていただきたい。
- 11月27日の玉井幼稚園・玉井小学校でのオープンスクール及びCS委員会、本当にお疲れ様でした。私も楽しく参観させていただき本当によかったと思っている。
- 今日のはかなり盛りだくさんの内容であるが、前回CS委員会が終わった後に役員会を開いて、どういう日程で進めるか話し合った。本日は時間が限られているが、有意義に熟議をしていただいて決定していきたい。よろしくお願いいたします。



4 諸連絡

（指導主事 斎藤 一範）

- 本日の日程と内容について説明
 - ① 研修：学校関係者評価についての研修（講話）
 - ② 協議：第2回コミュニティ広場について（全体）
 - ③ 協議：次年度各園・各校の幼稚園・学校運営方針についての熟議（各校・園毎→全体）

5 研修

（座長 CS委員会副会長 矢吹 吉信）

（1）講話「学校関係者評価の意義と評価委員の役割ー2ー」

講師 福島学院大学 教授 渡辺 博志 様

① 教育に求められていること、学校に期待されること

ア SDGs の考え方<17項目>を教育の柱とする（今、持続可能な未来をどうするか）

- ・17項目の視点（経済の成長、社会の役割、環境教育）
- ・4項目めに“「質の高い」教育をみんなに”がある。→本村の教育のコンセプトと通ずるもの<コミュニティ・スクール>

イ よい学校とは

- ・「問題」がない学校ではない。「問題と課題」を共有している学校である。
問題が発生したときにいかに早く正確に解決していくかが大切
- ・よい学校とは、問題や課題を学校と保護者、地域が共有している学校のことである。
→ 地域・家庭の教育力を生かす…地域の潜在能力は高い。様々な力をどう活用し、学校等にどうつなげていくかを考える。ex.学校支援ボランティア、学生ボランティア等
→ 地域にお世話になりながら、一緒に子どもを育てていく。

② コロナ禍の教育

○ 感受性期（教育<環境>がその子どもの能力開花に大きな影響を及ぼす時期）にすべきことをしないで身につけないまま通過してしまうと、後々苦勞が大きくなる。

- ・母親のスキンシップ、読書習慣、就学前の「遊ぶ」活動、かけ算九九、「愛情」表現の育成、コミュニケーションの基本（リズム同調等）等々

- ・歯ごたえのある「遊び」は、子どもを満足させる。「ちょっと背伸び」がキーワード。感受性期が成長のステージを確かにする。

○ 「社会的スキル」の定着 → コロナ禍でより必要なもの

- ・世間で生きるということ＝一人前になること → 社会全体で教育（教育相談も）を支えるシステムづくりを進める。
- ・リスペクト教育（尊重を基調におく教育）の充実…江戸しぐさに学ぶ
- ・コミュニケーション力は「生きる力」の基盤 → 身体表現・言語活動の重視、交流ミラーリング…視覚に働きかける。鏡のように相手の表情やしぐさを近づける。ペーシング…聴覚に働きかける。相手の声のスピードやトーン、リズムを近づける。バックトラッキング…言語によって働きかける。オウム返し。肯定し同調する。



③ 教育活動の評価

○ 「評価」とは実はとてもあたたかいもの

- ・社会的には、「評価」と「評定」が混同されている。
- ・評定 → 一定の尺度に従って段階を決める
- ・評価とは価値を見いだして明らかにすること（よさを見つける）である。

④ 学校評価を「てこ」に学校教育を活性化

○ 3つの評価（自己評価、学校関係者評価、第三者評価）を組み合わせた「学校評価」

○ 学校関係者評価 … 自己評価を基に評価を行う。自己評価をしたものが妥当かどうかをみること。

自己評価の客観性・透明性を高めること、学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携

により学校運営の改善にあたることが期待されており、学校・家庭・地域を結ぶ「コミュニケーション・ツール」としての活用を図ることが重要。

評価者は、学校に対して意見を述べるとともに、家庭・地域においては学校運営改善のための窓口の一つであると同時に学校の理解者としてその努力を伝えていくことが期待される。

(2) 質疑

(座 長) CS委員の皆様から質問がありましたらお願いしたい。

(会 長) 学校関係者評価委員として評価をしていて、「取り組みがよくて達成できた」ということで達成状況がみんなAになってしまう。そういう場合はどうすればいいか。

(講 師) 基本的には達成であればAなのだが、Aであってもプラス、マイナス等の幅があると思われる。その場合は意見として述べるのが適当である。また、評価のABCでBやCになると、その根拠や理由を明確に話さなくてはならない。Aがずっと並んでいる場合は、文章としても「よい」という内容(肯定的な内容)が表現されているべきだろう。

(会 長) 先生方の自己評価がAで、私たちが聞いても「改善の視点が達成できている」と判断した際に、どのような改善の視点を見つけたらいいのか困る時がある。これ以上どのように発展させていったらいいのか、定着しているのであれば違うところに移った方がいいのか等疑問に思うところがある。

(講 師) Aであっても、「継続するために課題はあるか」と率直に聞いてもいいのではないかな。また、別のところに視点を移すよう述べ、学校の回答を聞くのもよいと思う。Aだからすべて認めるのではなく、突っ込みを入れる(指摘する)ことも大切である。それも“あたたかな評価”であると考えて。

6 協 議

(座長 CS委員会副会長 矢吹 吉信)

(1) 第2回コミュニティ広場について

① 事務局案の提示

ア 第2回コミュニティ広場(第12回教育フォーラム)開催計画(案)の説明

- 日時: 令和3年2月20日(土) 9:00~11:30 於 改善センター
- 参加者を限定し広報等はしない。(最大123名)
- 第1部「ふるさと大玉村への思いを伝えよう」小・中学生の発表
- 第2部「ふるさと大玉村への私たちの思いを語り合おう~学校・家庭・地域のつながりを通して~」フリートーク ・地域とつながりのある企業も加える
- ・第2部の全体共有の際、グループ9~16班は後方の座席に移動する。
- 開催に当たっては、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて判断する。状況によっては中止する。

② 質疑応答

(座 長) 質問、ご意見等あればお願いします。昨年度も実施しているが、今年はコロナ禍ということで若干変更されている部分もある。

(会 長) このコロナの状況下で、2月の段階でどうなっているのかは分からないが、前回は第1部と第2部の切り替えで飲み物を提供していた記憶があるのだが、今年是用意しないということでもいいか。

(斎藤指導主事) 昨年度はお茶のコーナーを設けたが、今年度は飲食を伴うことは控えるということ考えている。

(斎藤委員) 飲食の件だが、各自飲み物を持参してもいいのか。

(斎藤指導主事) 飲み物の持参について、こちらからお知らせすることはしないが、各自で準備することに問題はない。

(2) 令和2年度各園・各校の幼稚園・学校運営方針について

① 各園・各校の素案についての説明及び熟議（各園・各校ごと）

- 各園・各校ごと（グループ）の進行による

② 全体共有 ※重点事項及び変更点を中心に

(座 長) それでは協議が終わりましたので、代表の方に説明をお願いします。

ア 大山幼稚園班

(CS委員 斎藤 信一)

- 重点目標については昨年度と変えず継続する。
- 発表会は大山小学校の体育館を借りて無事実施できた。
- 全体として気になること … コロナ禍によるものがほとんど
 - ・絵本を読まないとか、幼稚園ではできるが家では挨拶ができない子どもたちが増えていることとかを話してくる保護者がいる。
 - ・コロナ禍で絵本の貸し出しがストップしている。家に持って帰るとその都度消毒をしなくてはならず難しい状況である。方法については、今後検討していくようにしたい。
 - ・絵本の日を再開できたのは11月である。昨年度まではボランティアに来てもらって読み聞かせを行っていたのだが、現在はできていない。
 - ・口元がマスクで隠れている。この段階の子どもは、相手の表情を見て相手の感情を理解するので難しい。先生方も、外で口元が見えない中でコミュニケーションを図らなくてはならず大変であると思うが、いろいろ工夫をしながら取り組んでいただきたい。
 - ・地域との交流ができないが、そういった中でも知恵を出し合って取り組んでいきたい。



イ 玉井幼稚園班 (CS会長 伊藤 和弥)

- 読み聞かせや本の貸し出しについては、コロナの問題もあり難しい。どういうふうにしていったらいいのか悩んでいる。例えば、ボランティアに本の消毒をしてもらったら助かるのではないかという意見が出た。
- 本に接する時期は早ければ早いほどいいので、幼稚園以前の0歳児健診の際に保護者に働きかけるのはどうか。保護者にそういう意識を持たせることも必要である。

ウ 大山小学校班 (大山教育の構想に追加する事項) (大山小学校長 舘脇 一弘)

- 外国語教育 ○ ICT教育 (一人1台のiPad) ○ プログラミング教育
- 体力向上推進計画 (今年度大山小の児童が体力面で良くない面があったので力を入れていきたい。) ○ 虫歯 (う歯) 予防
- 全体的にコロナ対策を盛り込んでいく。

上記のように盛りだくさんになってしまうので、シンプルに分かりやすく作成していきたい。

エ 玉井小学校班 (次年度大切にしていきたいこと) (玉井小学校長 小林 雄)

- 情報活用能力 → ICTの効果的な活用
- コロナに対する正しい理解と実践を図っていく。
- 体験的な学びの充実 ○ ふるさと学習 ○ 幼小連接
- CS委員の方々に、「読書活動の充実」とあるがもう少し具体的な方策が必要ではないか、

また、コロナ禍の中での成果と課題を来年度の運営ビジョンに反映させてほしい等の意見をいただいた。

オ 大玉中学校班（2つの大きな方針）

（大玉中学校長 安田 浩明）

- コロナ禍の中で、十分に感染防止対策を図りながら、子どもたちの学びを止めないことが大事である。今年はコロナのため中止・延期があり、できた時に「できてよかった。」と話す子どもたちが多かった。できるのが当たり前であり、工夫しながら学びを子どもたちに保証していくようにしたい。

- 社会に開かれた教育課程の実現

- ・ 大人と子どもの新たな交流を開拓していきたい。多くの大人の知恵・考えを子どもたちに伝えること。それを通して、子どもたちの成長を促していきたいと思う。そのため先生方のアイデア工夫やを取り入れていきたい。先生方の学び続ける姿勢が大事であるので、指導力のある教師が揃う学校づくりに取り組んでいきたい。

現在でも指導力のある先生方が揃っているが、その持ち味・持てる力を子どもたちのために発揮してもらえるようにしたい。

- ・ 知・徳・体と3つの教育目標を掲げているが、細かな部分についてはこれから考えていきたいと思う。
- ・ 外部ティーチャーとして地域の方やいろんな方に来ていただき、教科、道徳、特活、総合的な時間などで直接ふれ合いながら学んでいければと思っている。



7 その他

（指導主事 斎藤一範）

- 次回第8回CS委員会は、1月14日（木）18：30から開催する予定です。

8 閉会のことば

（おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 大山 明美）

みなさん、今日は長時間お疲れ様でした。これを持ちまして、令和2年度第7回おおたま学園CS委員会を閉じたいと思います。ご苦労様でした。